

| 学科 管理栄養学科 | 氏名 小林 沙綾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------|------|------|--------|------|-----|--------|------|-----|---------|------|-----|------------|------|-----|----------|------|-----|--------|------|-----|-------------|------|-----|-------------|------|-----|----------|------|-----|------------|---------|-----|------|------|----|
| <p>家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。</p> <p>イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。</p> <p>ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、こどもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 教育の責任 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>私は主に、専門分野である公衆栄養学を担当している。本学家政学部管理栄養学科への着任初年度にあたる2025年度は、オムニバス科目を含め11科目を担当した(添付資料1)。担当した計11科目の内訳は右表の通りである。</p> <p>授業以外には、1年生の指導教員、臨地実習委員、管理栄養士国家試験対策委員、オープンキャンパスおよび併設校見学会における模擬講義を担当した。</p> <p>その他学内外における役割としては、愛知県公衆栄養学臨地実習担当者会議の幹事ならびに健康おかざき21計画協議会作業部会委員、産学連携活動における指導等を務めた。</p> | <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="727 1048 1118 1099">科目</th> <th data-bbox="1118 1048 1337 1099">開講時期</th> <th data-bbox="1337 1048 1505 1099">受講者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="727 1099 1118 1144">公衆栄養学Ⅰ</td> <td data-bbox="1118 1099 1337 1144">2年後期</td> <td data-bbox="1337 1099 1505 1144">61名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1144 1118 1189">公衆栄養学Ⅱ</td> <td data-bbox="1118 1144 1337 1189">3年前期</td> <td data-bbox="1337 1144 1505 1189">75名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1189 1118 1234">公衆栄養学実習</td> <td data-bbox="1118 1189 1337 1234">3年前期</td> <td data-bbox="1337 1189 1505 1234">75名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1234 1118 1279">健康栄養情報処理演習</td> <td data-bbox="1118 1234 1337 1279">3年後期</td> <td data-bbox="1337 1234 1505 1279">75名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1279 1118 1323">管理栄養士への道</td> <td data-bbox="1118 1279 1337 1323">1年前期</td> <td data-bbox="1337 1279 1505 1323">60名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1323 1118 1368">専門実践演習</td> <td data-bbox="1118 1323 1337 1368">3年通年</td> <td data-bbox="1337 1323 1505 1368">26名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1368 1118 1413">栄養実習事前・事後演習</td> <td data-bbox="1118 1368 1337 1413">3年通年</td> <td data-bbox="1337 1368 1505 1413">71名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1413 1118 1458">臨地実習B(公衆栄養)</td> <td data-bbox="1118 1413 1337 1458">3年通年</td> <td data-bbox="1337 1413 1505 1458">44名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1458 1118 1503">管理栄養士特論A</td> <td data-bbox="1118 1458 1337 1503">3年後期</td> <td data-bbox="1337 1458 1505 1503">74名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1503 1118 1547">管理栄養士特論B・C</td> <td data-bbox="1118 1503 1337 1547">4年前期・後期</td> <td data-bbox="1337 1503 1505 1547">60名</td> </tr> <tr> <td data-bbox="727 1547 1118 1592">卒業研究</td> <td data-bbox="1118 1547 1337 1592">3年後期</td> <td data-bbox="1337 1547 1505 1592">5名</td> </tr> </tbody> </table> | 科目 | 開講時期 | 受講者数 | 公衆栄養学Ⅰ | 2年後期 | 61名 | 公衆栄養学Ⅱ | 3年前期 | 75名 | 公衆栄養学実習 | 3年前期 | 75名 | 健康栄養情報処理演習 | 3年後期 | 75名 | 管理栄養士への道 | 1年前期 | 60名 | 専門実践演習 | 3年通年 | 26名 | 栄養実習事前・事後演習 | 3年通年 | 71名 | 臨地実習B(公衆栄養) | 3年通年 | 44名 | 管理栄養士特論A | 3年後期 | 74名 | 管理栄養士特論B・C | 4年前期・後期 | 60名 | 卒業研究 | 3年後期 | 5名 |
| 科目 | 開講時期 | 受講者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公衆栄養学Ⅰ | 2年後期 | 61名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公衆栄養学Ⅱ | 3年前期 | 75名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公衆栄養学実習 | 3年前期 | 75名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 健康栄養情報処理演習 | 3年後期 | 75名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 管理栄養士への道 | 1年前期 | 60名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 専門実践演習 | 3年通年 | 26名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 栄養実習事前・事後演習 | 3年通年 | 71名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 臨地実習B(公衆栄養) | 3年通年 | 44名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 管理栄養士特論A | 3年後期 | 74名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 管理栄養士特論B・C | 4年前期・後期 | 60名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業研究 | 3年後期 | 5名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 教育の理念と目的 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>私が担当する公衆栄養学は、地域住民の食・健康課題を適切に把握し、管理栄養士の専門性を活かしながら社会の制度や環境を整えることで、誰もが健やかに過ごすことができる社会を築くための学問である。これには、地域住民の健康課題をデータから読み解く「分析力」や、食・健康課題の背後にある住民の生活背景や心理的要因に寄り添う「共感力」、相手の心を動かしながら解決へとつなげる「発信力」が不可欠であると考えている。課題の根源を適切に分析し、且つ人の心を動かすことのできる管理栄養士の育成を目指し、今後も教育活動を実施していきたいと考える。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3 教育方法

私が担当している公衆栄養学および健康栄養情報処理演習は、定量的なデータを取り扱う手法を多く学ぶため、導入段階で苦手意識を持つ学生が少なくない。そのため、データの可視化によって解決できる具体的な課題事例を豊富に紹介し、管理栄養士の業務における幅広い可能性と魅力を伝えることで、その意識の払拭に努めている（添付資料 2）。また、学生の興味・関心を喚起する授業の展開として、管理栄養士としてのやりがいなどの実体験を紹介することで、学習意欲の向上を図っている。

学生の主体的な学びを促すためのアクティブ・ラーニングとしては、各回にグループワークを導入している（添付資料 3）。意見交換を通じて学びを深めるとともに、自身の知見を適切に発信し、周囲と協働する力の育成を目指している。

学習支援においては、学生への問いかけや机間指導を通じて理解度を逐次確認し、丁寧なサポートに注力している。質疑応答には Google Classroom を活用して授業内で全体に共有するほか、翌週の小テスト実施により、予習・復習のサイクルを習慣化させ、学びの定着を目指している（添付資料 2、4）。

4 授業改善の活動

「3 教育方法」にて既述の通り、授業内では常に学生の理解度を把握するよう努めている。小テストの正答率が低い項目や、共通して理解が不十分な点が見受けられるレポートについては、翌週以降の授業で改めて時間を割いて解説するなど、きめ細やかな指導を徹底している。また、期末の授業評価アンケートの結果を深く分析し、リフレクションペーパーへ改善策を記載することで、教育の質を向上させるよう心掛けている（添付資料 5、6）。

5 学生の授業評価

授業評価アンケートを実施した「公衆栄養学Ⅰ」「公衆栄養学Ⅱ」「公衆栄養学実習」「健康栄養情報処理演習」の全科目の 5 段階評価において、「教員の意欲」「教員の話し方」「授業の工夫」といった授業展開に関する項目の中央値がいずれも最高評価の「5」であり、教員の熱意や伝え方に対して高い評価が得られたと考えられる。また、「スライドが分かりやすい」「重要なところが赤字になっていて見やすかった」など、授業資料に対する肯定的な意見もみられた。これらの結果により、学生は授業内容に概ね満足していたと考える。一方で、講義科目である「公衆栄養学Ⅰ」「公衆栄養学Ⅱ」の予習・復習時間は、シラバス記載の時間ならびに学科平均を下回っていた。学習内容をより定着させるためにも、今後は授業外学習の促進を図る工夫が必要であると考え（添付資料 5、6）。

6 学生の学修成果

担当科目の成績評価について、「公衆栄養学Ⅱ」ならびに「公衆栄養学実習」の結果を下表に示した。両科目とも 3 年前期に開講されたため、座学で得た知識を実習での実践に直結させる授業構成とした（添付資料 1）。下表の成績分布より、不可（F）の学生はそれぞれ 4.1%、0.0%に留まり、優（A）以上の評価を得た学生は 60.8%、77.6%に達している。この結果から、学生が概ね優れた成績を取めていることが示唆される。

特に「公衆栄養学実習」の授業評価アンケートでは、「成長の実感」の項目で 94.8%の学生が肯定的な回答（「強く思う」65.5%、「やや思う」29.3%）を寄せた。自由記述においても「座学で学んだ流れを体験できたことで理解が深まった」との意見がみられ、座学と実習の連動が学生の成長を促したと考えられる（添付資料 5）。

今後は、管理栄養士国家試験における公衆栄養学分野の応用的な出題傾向も見据え、定期試験の難易度や授業内容のさらなる精査を通じ、より高度な国家試験対策にも繋がる学びの提供を推進したい。

| 科目 | 秀 (S) | 優 (A) | 良 (B) | 可 (C) | 不可 (F) |
|---------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 公衆栄養学Ⅱ | 17.6% | 43.2% | 23.0% | 12.2% | 4.1% |
| 公衆栄養学実習 | 18.4% | 59.2% | 15.8% | 6.6% | 0.0% |

7 授業科目に関連した教材開発

全ての科目において授業スライドを作成し、授業前に Google Classroom に掲載することで、学生が気軽に授業内容を予習・復習できるように考慮した（添付資料 2）。座学では、重要な箇所を穴抜きにした配布プリントを作成し、授業の進行とともに学生に記入を促した（添付資料 7）。また、座学ならびに実習・演習いずれにおいても、Google Classroom を通したレポート課題の提示・添削を行った（添付資料 8）。小テストは Google Forms にて実施し、学生が自身の正誤を回答直後に確認できるような内容とすることで、迅速にフィードバックができるよう心掛けた（添付資料 4）。

8 指導力向上のための取り組み

学内の FD 研修会や公開授業への参加を通じて、授業方法の見直しを行っている。さらに学外においても、研修会等で講師の教授法や受講者とのコミュニケーション技術を積極的に学び、自身の指導に取り入れることで、指導力の向上に努めている。

9 今後の目標

まずは短期目標として、学生がより主体的に学ぶ姿勢を獲得できるよう、専門的な知識を理解しやすく伝える能力の向上を目指したい。公衆栄養学は社会情勢の変化とも密接に関わる学問であるため、自分自身も学び続けることを忘れず、当科目の魅力を生徒に伝えて続けていきたい。長期目標としては、自身の教育理念である「食・健康課題の根源を適切に分析し、且つ人の心を動かすことのできる管理栄養士の育成」に貢献できるよう、学会への参加や研究活動も積極的に行い、広い視野から学びを得ることで自己研鑽を続けたい。

10 添付資料

添付資料 1：シラバス

添付資料 2：授業スライド

添付資料 3：ワークシート（グループワーク）

添付資料 4：小テスト

添付資料 5：授業評価アンケート

添付資料 6：リフレクションペーパー

添付資料 7：授業配布プリント

添付資料 8：レポート課題シート